

## 〈報告〉

## 新・未来プロジェクトIIを振り返って

梨木 義 春

埼玉県大久保浄水場

(〒338-0814 埼玉県さいたま市桜区宿618 E-mail: nashiki.yoshiharu@pref.saitama.lg.jp)

## 概 要

環境システム計測制御学会(EICA)では、産官学の若手技術者・研究者における組織の枠を超えた交流を促し、将来の仕事および活躍のために有用で新たな人材ネットワークを形成することを目的とした未来プロジェクトを2005年より毎年開催している。本プロジェクトの7期目にあたる新・未来プロジェクトIIのメンバーとして2011年12月から約1年間にわたって活動した内容とその効果等についてまとめた。

キーワード：若手技術者、人材育成、人材ネットワーク  
原稿受付 2012.12.25

EICA: 17(4) 67-68

## 1. はじめに

本学会では、産官学の若手技術者・研究者における組織の枠を超えた交流を促し、将来の仕事及び活躍のために有用で新たな人材ネットワークを形成することを目的に本プロジェクトを設置し、2005年より毎年開催している。これまで、6期にわたって、「サステナビリティ」、「ライフサイクルアセスメント」、「日本の環境技術と海外展開」といった先進的なテーマを取り上げ、延べ100名を超える若手技術者が参加している。また、2011年(6期)からは、これまでのプロジェクト卒業生を主体とした運営となり、“新”未来プロジェクトが始動している。

## 2. 新・未来プロジェクトII(7期)の活動内容

2011年12月から始まった7期目にあたる新・未来プロジェクトIIでは、東日本大震災を踏まえ「災害に強いしなやかなライフライン」をテーマとして開催された。

本プロジェクトは、上下水道分野における産官学から15名の若手技術者、研究者で構成され、2011年12月より計5回のセミナーが開催された。セミナーでは、様々な分野で活躍しておられる「先輩」を講師とし、最先端の話題から幅広い話題を講演いただき、被災地の方々のご協力により宮城県仙台市の被災状況等の視察も行うことができた(Table 1)。

また、本プロジェクトの特徴としては、各講演を受けて、メンバー同士の討議の場となり、「先輩」達に

Table 1 Speakers and titles of seminars in this Project

	講演内容等
第1回 (2011.12)	講演 「サステナビリティ」 講師 味埜 俊氏 (東京大学大学院社会文化環境学専攻教授)
第2回 (2012.2)	講演 「EICA 東日本大震災調査研究」 講師 中里卓治氏(元東京都下水道局施設管理部長)
第3回 (2012.4)	講演 「高齢社会にむけたコミュニティのデザイン 仮設まちづくりの展開」 講師 小泉秀樹氏(東京大学大学院工学研究科准教授)
第4回 (2012.6)	被災地視察 「名取市閑上地区、南蒲生浄化センター」 案内人 仙台市南蒲生浄化センター
第5回 (2012.9)	講演 「災害に強い自律するICT」 講師 新 誠一氏 (電気通信大学 電気通信学部システム工学科教授)

Table 2 Titles of this Project study

	研究発表テーマ
Aチーム	「水インフラの耐災害に関する考え方の変遷と今後」
Bチーム	「大震災における緊急水対策チーム」
Cチーム	「下水道施設に求められる復興に向けたコミュニケーション」

よるアドバイスをいただきながら、解決策の検討やアイデア抽出を行うことである。

さらに、総まとめとして、EICA第24回研究発表会において、「災害に強いしなやかなライフライン」の実現に必要な3件の提案をポスター発表した。提案の詳細は、EICA学会誌を参照されたい(Table 2)。

## 3. 活動を振り返って

講演・討議を通し、「先輩」達からは、何度も想像力の無さや先入観をもった議論を展開してしまっていることを指摘され、幅広い知識以外にも物事の捉え方

や考え方など多くの「気づき」が得られた。

また、メンバーとの意見交換では、新たな視点や専門外知識など多くの刺激を受けたとともに、1年間の活動を通して、本プロジェクトの最大の効果でもある良好なネットワーク形成を行うことができた。

我々、若手技術者は、時代や環境の変化により、業務から得られる経験が少なく、一方で、今後は、利用者の高まる要求を満たすため、限られた資源（人・物・金）の中で、技術に裏付けされたアイデアを求

められる機会が多くなってくると感じている。

このような状況下では、一個人、一組織では解決できないことが多く、このようなネットワークが有効かつ最高の手段となることは間違いない。

最後に、このような機会を与えていただいた関係者の方々に感謝するとともに、「先輩」達の期待を裏切らないよう、ネットワークを最大限活用・拡充していきたい。